

TV会議で「握手」

阪大、互いに感触伝達



ロボットハンドを通じて握手ができる

大阪大学の中西英之准教授らは人の腕そっくりのロボットハンドを備えた表示装置を開発した。遠くにいる人と画面越しに握手ができる。人の気配を伝えるペンチも作った。いずれもテレビ会議や遠隔医療で離れた地域を結んだときの違和感をなくす技術革新の一環。

滑なコミュニケーションを助けた。相手側の表示装置も同じ仕組みだ。表示装置は相手の上半身が映り、腕の先が画面の外で5本指のロボットハンドにつながって見える。離れた人同士が互いのハンドを握ると指のセ

ンサーが圧力をとらえ、遠方を結んだ商談でも、ネットにつながった先の歓迎の気持ちや謝意を握手が同じように相手手で表せる。大学生53人の手を握る。手応えを伝で試すと、普通のテレビ会議よりも相手を近く感じる技術で、海外の家族や友人と交流ができる。じ、親しみを覚えた。人の気配を伝えるペンチは2脚1組で使う。一方に座った人がそわそわすると、がたつきをセンサが感知してもう一方のペンチを揺らす。医師や看護師が病院のベンチに座り、患者も自宅に置いたベンチに腰を下ろせば、自分のそばに医師らが寄り添う感覚になる。